

# 高橋葡萄園（花巻市）

経営概要：稲作50a、ワイン用ぶどう50a、ワイン醸造

[6次産業化総合化事業計画について]

テーマ：自家産ぶどうによるオリジナルワインを製造、販売

事業概要：マイクロワイナリーをつくり、ワイン用ぶどうの生産、品質向上と醸造技術向上を図り、ワインソムリエ等のネットワークを生かした販路開拓を行う。また、販売所を整備し大迫地区の活性化に寄与することを目指す。



## ①取組の経緯

- オーストリア等国内外で15年製造経験し、取得したワイン醸造士資格を生かしたいと考えていた。
- 兼業の父と母が行ってきたワイン用ぶどう生産を引き継ぐとともに、生産者の高齢化が著しい近隣の葡萄園を担い手として借り受けて生産拡大していきたいという思いもあり、自前のワイン醸造工場をつくり、オリジナルワインを製造、販売する6次産業化総合化事業計画で、平成25年3月に認定を受けた。

## ②課題

- 計画認定の翌年に工場を建設したかったが、新規事業としての取組となるため融資を受けられず、工場建設がすぐには出来なかった。

## ③課題解決の方法

- 農業近代化資金を利用し、予定より2年遅れの平成27年に工場を建設した。工場が出来るまでは醸造委託したので、その分、営業活動に力を注ぎ、顧客づくりにつながった。

## ④取組の効果

- 当初は醸造委託したものの、飲食店等需要者に対する営業活動に自ら取り組めたので、様々な出会いができ、顧客増となっている。
- 飲食店等の実需者がブドウ畑や醸造所に興味を持って来てくれ、交流が出来るようになった。
- 飲食店等の実需者は、生産から醸造までを一貫して行う現場をみると、理解者となり、時にはセールスマンになってくれるので、取引の拡大に繋がった。

## ⑤取組のポイント

- 販路を意識した商品づくり  
→6次産業化は作るまではよいが、販売が大変である。  
需要者とコミュニケーションを取る等、販路を意識した商品づくりが重要。
- 認定を受けることで、サポートが受けられる  
→6次産業化支援センターのプランナーのアドバイスを受けられるのがよい。

